

一般演題7 O7-1

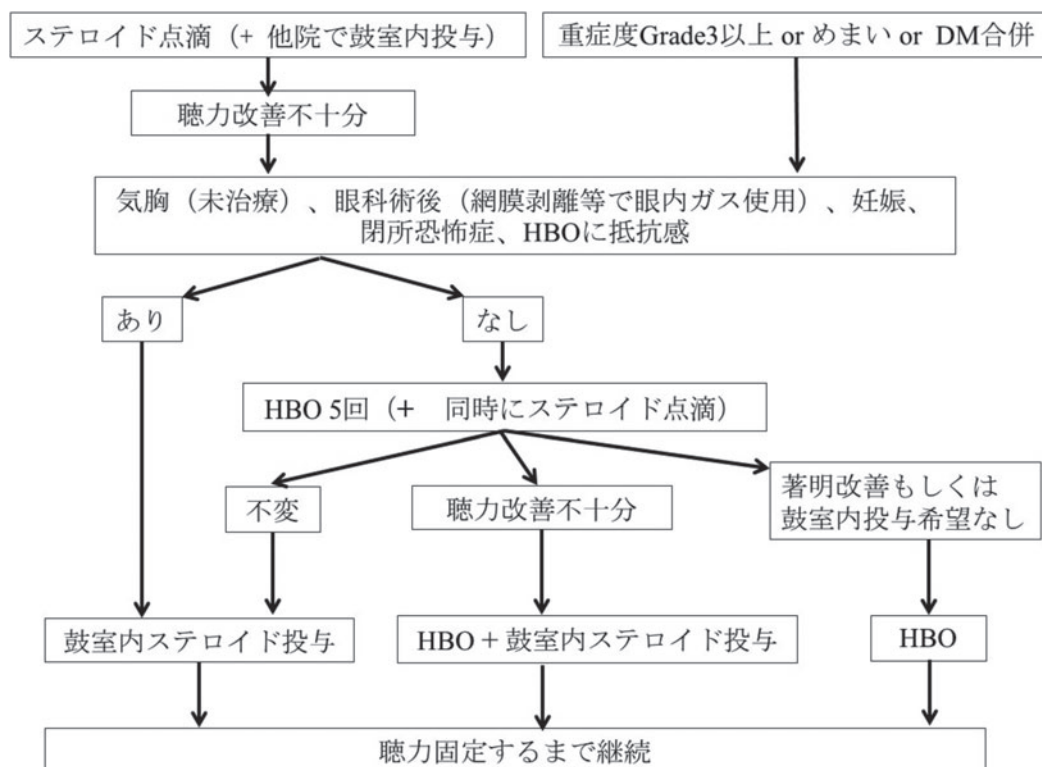
突発性難聴に対する当院の治療成績
 ー発症後早期から高気圧酸素治療を組み入れた当院治療プロトコルの有用性ー

杉浦 真¹⁾ 春田良雄²⁾ 木村早希²⁾
 野堀耕佑²⁾

- 1) 公立陶生病院 耳鼻咽喉科
- 2) 公立陶生病院 臨床工学部

当院では、過去の報告より突発性難聴の発症から2週間以内の高気圧酸素治療 (hyperbaric oxygen therapy, HBO) は難聴について有効性があること、HBOと経口ステロイド群が有効であったことを鑑み、1. 重症例を中心に早期からHBOを組み入れ、2. 効果のある場合には聴力固定までHBOを継続する、ただし、3. HBO無効の場合には拘泥せず鼓室内ステロイド注射を併用するといった、上記1から3を含む治療プロトコルを使用しており、今回、その成績を検討した。HBOを施行した突発性難聴例の年齢、性別、糖

尿病・高血圧の有無、発症からHBO開始までの日数、前庭症状の有無、初診時と聴力固定時の聴力レベル、HBO開始時期決定要因について検討した。2016年4月から2018年4月までの2年間に当院耳鼻咽喉科を受診しHBOを行った突発性難聴20例、20耳を対象とした。重症度はGrade 2が3例、Grade 3が8例、Grade 4が9例であった。全症例の治癒率は30%、有効率(治癒+著明改善)は60%であった。本研究ではステロイドの効果不十分で、かつ、半数近くがGrade4と重症度の高い症例が多いことを考慮にいとると比較的良好的な治療効果が得られたと考えた。発症から7日以内にHBOを開始した群では治癒率、有効率ともに比較的高かったが、聴力回復判定基準や改善率では7日以内にHBOを開始した群と8日以降の開始群で有意差は認められなかった。全例でHBOによる有害事象を認めなかった。重症例が多い割には当院の治療成績は良好であり治療プロトコルが有用である可能性が示唆された。



HBO: 高気圧酸素治療, 鼓室内投与: 鼓室内ステロイド注射, or: もしくは, DM: 糖尿病

図1 当院での突発性難聴に対する治療プロトコル